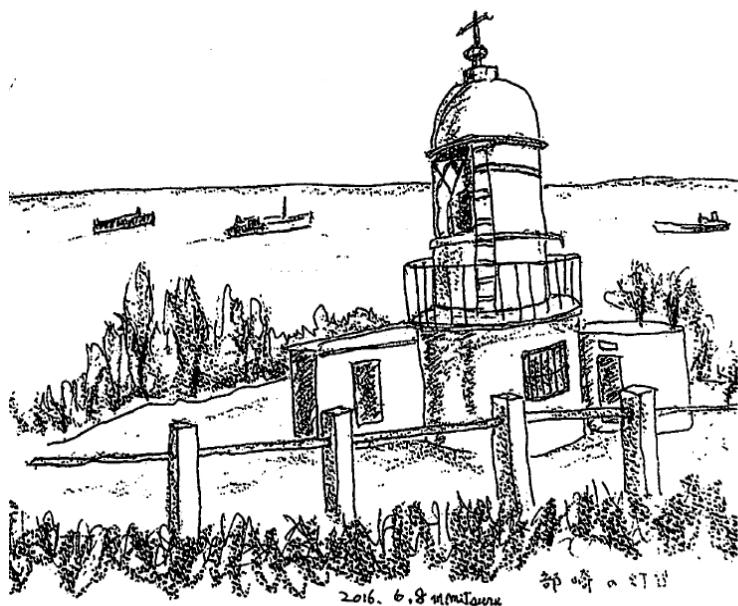


週報2020年4月26日



2020年教会標語聖句

キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。

コロサイ人への手紙3章15節

シオン教会信仰指標：“成熟したキリスト者を目指して”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX…4396)

牧師携帯 090-6737-5276



2020年4月26(日) 聖日礼拝

説教箇所 使徒の働き 17章 1～15節

説教題 「御言葉に対する情熱」

賛美 新聖歌 355 「主と共に歩む」

使徒の働き 17章 1～2 (新改訳第三版)

使 17:1 彼らはアムピポリスとアポロニヤを通して、テサロニケへ行った。そこには、ユダヤ人の会堂があった。17:2 パウロはいつもしているように、会堂に入って行って、三つの安息日にわたり、聖書に基づいて彼らと論じた。

使徒の働き 17章 4～5

使 17:4 彼らのうちの幾人かはよくわかって、パウロとシラスに従った。またほかに、神を敬うギリシヤ人が大ぜいおり、貴婦人たちも少なくなかった。17:5 ところが、ねたみにかられたユダヤ人は、町のならず者を集め、暴動を起こして町を騒がせ、またヤソンの家を襲い、ふたりを人々の前に引き出そうとして搜した。

使徒の働き 17章 10～12

使 17:10 兄弟たちは、すぐさま、夜のうちにパウロとシラスをベレヤへ送り出した。ふたりはそこに着くと、ユダヤ人の会堂に入って行った。17:11 ここのユダヤ人は、テサロニケにいる者たちよりも良い人たちで、非常に熱心にみことばを聞き、はたしてそのとおりかどうかと毎日聖書を調べた。17:12 そのため、彼らのうちの多くの者が信仰に入った。その中にはギリシヤの貴婦人や男子も少なくなかった。

※一部抜粋 17章 1～15 全体をお読みされる事をお勧め致します。

説教要約

使徒の働き 17 章 1～15

I 導入

「御言葉に対する情熱」

パウロが宣教旅行中、常に行なっていたことは、まず最初にその場所にあるユダヤ人会堂で「イエスキリストによる救い」について語る事でした。今回注目したいことはテサロニケにいるユダヤ人とベレヤにいるユダヤ人の御言葉に対する姿勢です。一方は妬みを起こし民衆（ならず者達）を扇動し、暴動を起こしました。そしてもう一方は熱心に御言葉を聞き、聖書の言葉が真実かどうか、毎日研究しました。

今日のテーマは、私達は何に熱心になるべきか？です。妬みという言葉を辞書で調べると「自分の愛する対象が別の存在に心を寄せる事」と書いてありました。今回の箇所はこの言葉を当てはめると・・・パウロが語った聖書の言葉によってテサロニケの人々は心を変え、そしてその様子を見たユダヤ人が妬みを起こした・・・となります。ある哲学者はこのように言いました。「妬みの中で起こされる憎しみは自己評価の低下によって引き起こされる。」彼らは御言葉に対して憧れや、自らが変わりたいという心があったのだと、私は考えます。しかし自分の劣等感、人生に対する不条理、みじめさが心の中で増大し、結果、主に変えられて行く人々の邪魔をしました。人は御言葉から耳を塞いでしまう弱さがあります。それは人間のもつ憎しみや妬みから来るのです。

使徒行伝 17 章 11 節をもう一度お読み下さい。ここにある良い人の定義は、御言葉に対して素直でひた向きであったという事です。双方のユダヤ人の歴史をたどると、彼らは元来、同じ場所で過ごし、生活していました。しかし大国に惨敗し自らの国を追われ、そのような背景でたどり着いた地で苦悩し葛藤しながら生きていたのです。「何故このような事が我々に起こったのか？」と。妬みの為に御言葉を拒絶したテサロニケのユダヤ人、素直な心で熱心に御言葉を追い求めたベレヤのユダヤ人、私達が今日、学ぶべきことは何に対して熱心であるべきかです。

II 本論(証)

何度かお話しさせて頂いているフィリピンでの留学中での話ですが、その学校では一つ大きなルールがありました。「同じ国籍の人と話す場

合は自国語を使っても良い。しかし一人でも他国の人がそこに居る場合、英語で話さなければならない。」つまりこのルールは「必要以上に同じ国の人と居てはいけません」「積極的に他国の人と英語で交わり色々勉強しなさい」という意味があります。しかしこのルール、私から見て、多くの人達が守っている様には見えませんでした。たびたび同じ国同士の人間が集まり、よくパーティーや交流をしていたのです。私はその人達を心の中で思いっきり裁いていました。「何の為にこの学校に来たのか、勉強の為に来たのじゃないのか？」しかし、ある時、学校の先生や友人から彼らがたびたび集まる理由を聞きました。ある国は迫害され、クリスチャンが他の教会の人と会う事が難しい事や、又ある国では民族間で対立していて、他民族間でのクリスチャンの交流が難しい事等。私はその事を初めて知った時、悔い改めました。如何に自分が表面的な事しか見ておらず、人々を裁いていたか、そして本心は私自身異国の地で淋しく、そのような交わりに飢えていたという事です。単純に羨ましかったのです。それから私は少しずつ、色々な国のグループや食事会に参加するようになりました。時にはお好み焼きを焼いてパーティしたりしました。そして祈祷会を持ちました。さらに福音が広がっていくようにお互いの国の為、心を合わせて熱心に祈りを捧げました。

III 結び

今日私達が学ぶべき事は「人は誰でも素直な心でひた向きに御言葉を追い求めるなら祝福を得る」という事です。私達は主の宣教の為、その地に遣わされた大使です。しかし時々その場所で孤独になる時があります。冒頭の葛藤は私達の心の叫びです。信仰生活の中で「何故このような事が私に起こったのか？」そのみじめさ、劣等感、不条理が私の人生を狂わした。その負の感情はいつしか心の中で暴動を起こすのです。他者を巻き込み、人々を傷つける・・・そんな自分が許せない時があります。

イエス様は自らの歩みの中で、これからの不条理やみじめさをわかっていながらその歩みを進めて行かれました。それはそのような中に迷い出て本当の主人を見失った私達を救うためにです。私達はイエスの御名、このお方の情熱によって救われました。御言葉に対して素直になり、ひた向きになれるように新しくされたのです。私達は赦されています。だから一足一足、学ぶ事が出来るのです。妬みから来る怒りに心燃やすのではなく、御言葉に心燃やされる者となり共に前進してまいりましょう。